

昭和11年の『糟屋郡教育銘鑑』と大正14年の

『学校経営の実際』(1)

緊急事態宣言を受けての外出自
粛要請で歴史の研究もままならな
い。資料を読み図書館に向く、
史跡の写真を撮りに行く、仲間
集まって研究を發表し情報交換
する。当たり前に行なっていたこ
とができず、もう一年近く不自
由が続いている。

ステイホームでもなんとかやっ
ているのはインターネットの発展の
おかげである。家にいながらし
てさまざまな本や資料を閲覧可
な。たとえば杉田玄白・前野良沢の『解
体新書』。原本は言うまでもなく貴
重書で、簡単に手に取るわけに
ないのは当然だが、インターネット
では東京大学医学図書館デジタル
史料室 古典籍コレクションで画像
（ラ）を公開している。『解体新書』は
慶應義塾大学メディアセンター・デ

ジタルコレクションの解剖学コレク
ションにも入っていて、元になった
オランダ語の原書「ターヘル・アナト
ミア」も合わせて閲覧できる。もち
ろん他の国公私立大学でも貴重書
デジタル化を進め、画像で公開し
ているので、紙質の手触り感を求め
ない限りはインターネット上の情報で
事足りる。

国立国会図書館デジタルコレク
ションは2020年11月現在で図
書97万点、雑誌134万点がデジ
タル化されていて、内、それぞれ
35万点、1万点がインターネット
上で公開されている。膨大な数の
文献が自宅のパソコンで自由に閲
覧できるというわけである。デジ
タル化することで原本の劣化を防
ぐことができるし、災害などで原
本が失われても情報は残る。私た

ちにとってはいちいち東京に行か
なくても、また図書館の開館時間
にも縛られずに閲覧できるとい
う便宜がある。閲覧する際に窓口
で必要な本や資料を提示するの
も、実際には手間を要すること
である。インターネットで問題になる
のは検索ワードだから、いろいろな
検索を繰り返して予想もなかった
資料に出会うことにもなる。

前回まで紹介した『糟屋郡志』
も国会図書館デジタルコレク
ションに収録されている。今回
は同じくデジタルコレクション
から『糟屋郡教育銘鑑』と『学校
経営の実際』を紹介すること
したい。後者は表題からは糟屋郡
と関係がありそうにないが、ど
うしてこんな本があったかと不
思議に思うぐらいの内容である。

藤卯一郎著『学校経営の実際』は
大正14(1925)年12月31日発行。
大晦日の発行にするぐらいなら、
1日遅らせて元日発行にしてもよ
さそうなのですが、なぜか大晦
日にこだわっています。

奥付にある著作兼発行者は藤
卯一郎で、住所は篠栗村大字篠栗。
印刷所が福岡市橋口町の秀巧社、
発売は福岡市書店(中島勉強堂、森
岡博文社、積文館、金文堂福岡支店、
村上誠貫堂。糟屋郡の人が自分で
発行したもの(私家版)です。

内容は文字どおり学校運営の
業務を網羅したもので、言わば教師
のための手引き書、マニュアル本
です。たとえば欠勤届のひな形を
上げているというふうに、学校で
必要な書類はすべてひな形がそ

ろっている、手元に置いて参
照すれば便利この上ないと言え
ます。しかしその、実際がすべて篠
栗の小学校の事例です。どれだけ
の読者が期待できたのか、極端に
言うところには必要がなかつ
たのではないかと心配になるぐ
らいです。しかしそのことで逆に
言うところ、一つの小学校で必要と
された情報のすべてがバックされ
て、当時の学校生活を知る上で
こんなに役立つものもありません。

『遠足会及修学旅行規程』をのぞ
いてみましょう。遠足は二種類あ
って、甲種は学校行事、乙種は学級
行事という違いがあります。

第一条 遠足会ハ甲乙二種ニ 分チテ之ヲ行フ

第一条 甲種ハ各学期一回、全

校児童同時ニ、(学年 二)心ジテ行先距離相 違行フコトヲ本 トシ、時宜ニヨリ分離シ テ行フコトアルベシ。

乙種遠足会ハ、各学級
ニテ行フコトトシ、時
宜ニヨリテハ合同シ
テ行フコトヲ得ルモ
ノトス。

第二条 遠足ノ場所ハ大要左 ノ場所ヲ指定ス

- (一)一、二学年ニ適スル区域
行程二里乃至二里半)
- 1 山王、荒田、天狗岩、御田原、
田ノ浦
- 2 観音坂、陣ヶ田尾、五塔ノ瀧、
鳴瀬
- 3 小浦、大久保、郷ノ原、二瀬
川、城戸
- 4 新吉野、往復
- 5 中ノ河内、田ノ浦、建岩、桐
ノ木谷、新吉野
- 6 若杉楽園、往復

小学校一、二年の遠足候補地は6
コースあり、コースごとに行きと
戻りの道筋が指定されていて、往
復とある場合は来た道に戻る、と
いうことになります。これが3、4
年になると宇美八幡宮往復、箱崎
八幡宮往復、香椎宮往復を含む6
コース(行程は3里〜5里、5、6
年では1が宇美、乙金、太宰府、只
越なので、篠栗から須恵・宇美・大

野城を経て太宰府へ、そこから宇
美・須恵を経て篠栗に戻ることに
なります(行程は5里〜8里)。こ
れは相当に体力を要してです。

さらに高等科(今の中学1、2年)
になると行程8里〜10里の3コ
ースで、

- 1 久原、犬鳴、脇田、緑山、萩
尾又八山田、青柳、立花
- 2 荒田、砥石山、三郡山、障子
岳、須恵
- 3 飯塚、天道、大分

これが昭和期に入っても実施さ
れていたとすると、今でも記憶し
ておられる人がいるでしょう。『学
校経営の実際』は、戦前の小学校の
生活がどんなふうであったかが克
明に記録されていて、現代からみ
て貴重な内容と言えます。

著者藤卯一郎とはどんな人なの
か。その問いに答えてくれるのが
『糟屋郡教育銘鑑』です。

『糟屋郡教育銘鑑』は藤卯一郎著、
昭和11(1936)年1月25日、福
岡朝日新聞社発行。印刷は福岡市
材木町の葛浦印刷所。藤卯一郎と
藤和一郎。どちも「つ」と読む
のだらうと思われる。福岡朝日
新聞は現在の朝日新聞(当時)は東京

朝日新聞、大阪朝日新聞とは全く
関係がありません。

著者と福岡朝日新聞社同じ住
所で糟屋郡大川村大字内橋(現、粕
屋町)です。今となっては福岡朝日
新聞社の業績を知る由もありません
が、この銘鑑は同新聞社の創刊
15周年記念事業としての出版とさ
れています。

著者の『編纂に際して』には、
「本紙創刊以来日刊新聞として経営
する事約十ヶ年」とあり、
「大正十五年春三月本社拾周年祝賀
を九州劇場にて、且又参千号祝賀
を川丈座に於て一週間に渉る九州
浄瑠璃大会を催したとも書かれて
いるので、

創刊が大正5(1916)年、15
周年は昭和6(1931)年になり
ます。15周年事業として編纂を始
め、昭和11(1936)年に刊行に
こぎつけたという意味に受け取っ
ています。福岡朝日新聞は糟屋郡
のローカル紙(地域紙)のようです
が、今のところ現物に出会ったこ
とはありません。

『糟屋郡教育銘鑑』の口絵に内橋
村庄屋和作、同和七を表彰するく
ずし字の文書を掲げていて、藤和
一郎はその子孫ということのよう
です。

『糟屋郡教育銘鑑序』(福岡市浪人
町、安河内孝介)によると、藤和
一郎は「大川村大字内橋の産」で、「弱
冠小学校教育に従事せられ」とあり、

小学校教師を経て新聞を創刊する
ようになったとこのことです。

藤卯一郎の履歴がこの本から判
明します。

- 1883(明治16)年9月生。現
住所は糟屋郡勢門村大字田中(現、
篠栗町)。
- 1905(明治38)年3月28日
福岡師範学校(現・福岡教育大学)
卒業。小学校本科正教員免許状受領。
*満21歳
- 同年4月〜1907(明治40)年3月
宇美尋常小学校訓導奉命。
- 1907(明治40)年4月〜
1908(明治41)年3月
大川高等小学校訓導奉命。
- 1908(明治41)年4月〜
1909(明治42)年3月
勢門尋常小学校訓導奉命。
- 1909(明治42)年4月〜同年10月
篠栗尋常小学校訓導奉命。
- 1913(大正2)年2月
須恵尋常高等小学校訓導奉命。
- 同年3月 篠栗尋常高等小学校へ
転任。
- 1919(大正8)年12月

勢門尋常高等小学校訓導兼校長
奉命。 *満36歳

1921(大正10)年3月
篠栗尋常高等小学校訓導兼校長
奉命。 *満37歳

1927(昭和2)年10月
香椎尋常高等小学校校長に転任。
1928(昭和3)年3月
久原尋常高等小学校校長奉命。
1933(昭和8)年3月依願退職。
*満49歳

尋常小学校と高等小学校の
就学期間に変遷がありますが、
1907(明治40)年からは尋常小
学校6年が義務教育となり、高等
小学校は2学年となります。した
がって高等小学校は現在の中学1
・2年に相当します。

藤卯一郎は篠栗尋常高等小学校
に校長として1921年から27
年まで、6年7か月在籍。『学校
経営の実際』(1925年)はその在任
期間に発行されたことがわかりま
した。



『学校経営の実際』
(『国会図書館デジタルコレクション』より)